

〒162-0814
 東京都新宿区新小川町5番24号
 電話 03-3260-6331
 Fax 03-3235-4324
 E-mail jwaf@jwaf.jp
 HP http://www.jwaf.jp
 発行責任者 浦添 嘉徳

日本勤労者山岳連盟
 Japan Workers Alpine
 Federation

連絡や情報は下記へ
 フリーダイヤル(10時~18時)
0120-442-742

ROUSAN 労山ニュース

労山創立60周年記念



日本勤労者山岳連盟創立60周年記念講演会・レセプションを11月14日行った。講演会・レセプションには、日本山岳・スポーツクライミング協会、日本山岳会、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤ協会、日本ヒマヤランアドベンチャートラストなど日本を代表する山岳団体、新日本スポーツ連盟、全国から労山の仲間に参加して頂いた。

記念講演では、浦添嘉徳理事長が開会あいさつ、川嶋事務局長が労山基金の講演、K2に日本女性として初登頂した小松由佳さんが記念講演を行った。レセプションでは、佐々木功会長の開会あいさつ、各山岳団体等からあいさつをいただいた。また、労山会員もメンバーとしてライブ活動している光が丘ドーンズの演奏で、リニア反対運動の中で生まれた「赤石を壊さないで」の歌も披露した。

「K2〜シリアへ」ー8000Eのバークから見えてきたものー

小松由佳さんが記念講演

60周年記念講演会で講演した小松由佳さんは、2006年、世界第二の高峰K2(8611m/パキスタン)の南南東リブルトより登頂を果たした。下山中に8000m付近でビバ

グし奇跡的に生還したが、命の危険を冒した厳しい実体験の具体的な話に、参加者は息を凝らして聞いていた。

その後、風土に生きる人間の暮らしにひかれ、フォトグラフィアの道を志す。2012年からシリア内戦・難民をテーマに取材を続け、シリア遊牧民の大家族と生活を共にし、裕福ではないが生きる喜びにあふれる姿を記録する。そして、内戦による難民救済のための自立支援活動などにも取り組んでいる体験について話を進めた。

参加者は、感動の面持ちで聞き入っていた。



「赤石を壊さないで」を歌った光が丘ドーンズ

主な記事

- 2面 60周年記念の会長・理事長挨拶
- 3面 労山基金 事務局長の記念講演
- 4面 山筋ゴーゴー体操講習会・Tシャツ
- 5面 全国自然保護集会・女性担当者会議
- 6面 若手のクライミング講習会
- 7面 会・クラブの活動コーナー(大宮労山)
- 8面 リニア工事反対署名国会に届ける

労山創立60周年記念行事での会長・理事長の挨拶（要旨）

日本勤労者山岳連盟会長

佐々木 功

創立60周年記念レセプションにあたり、コロナ感染が厳しいなか、ご来賓や会員の皆さまのご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たち「日本勤労者山岳連盟」は、マナ

スル初登頂などで日本社会が登山ブームに沸くなか、伊藤正一が呼びかけ、勤労者を主人公とする新しい山岳会を作ろうと、1960年5月に誕生しました。発足に当たっては、構想に賛同された17名の方々にも発起人となっていたいただきまし

た。労山の礎を築いた諸先輩、登山界各団体の皆様からのご指導とご協力をいただき、60周年を迎えることができたことに、感謝と御礼を申し上げます。

労山は、「趣意書」の理念をかかげ「ハイキングからヒマラヤまで」をスローガンに、登山やハイキングの喜びを広く国民のものと

を保全・保護する活動を推進してまいりました。しかし、課題はなお山積しています。遭難事故を減らすこと、会員の減少と高齢化の問題、組織に所属していない若者たちをどのようにして迎え入れるのか、解決していかなければならない事柄が数多くあります。その意味で、労山はまだまだ発展途上の山岳団体です。

創立60周年も「未来に向けての一里塚」と位置付けていきたいと思えます。ここに、その決意を新たにし、目標に向かってチャレンジを始めていく所存です。

登山は平和があつてこそです。世界中が平和であり、そのなかで日本の登山文化を次世代に引き継ぐことを目指し、登山界の皆さまと協力を深めてまいります。

日本勤労者山岳連盟理事長

浦添 嘉徳

労山創立60周年記念行事に、日本を代表する山岳団体及び登山家、全国から労山の仲間に参加して頂き感謝を申し上げます。

労山は、1960年に、産声をあげました。そして、全国の山を愛する勤労者の中に組織を広げ、全国の都道府県に加盟組織

があります。

創立60年を記念に、「労山の60年」を発行しました。詳しい歴史は、そこに記してあります。簡潔に説明しますと、労山は、だれでも参加でき、自由闊達に発言できる集会を開催、①登山技術、②安全登山、③平和と登山の諸問題などを話し合い、全国の仲間の知恵と力を結集し、労山の運動・組織

を前進させてきました。

それは、会員の山岳事故に備えた互助制度として、独自の遭難対策基金を創設、遭難・救助費用の補償や地方連盟の安全対策の学習活動や救助技術講習会の費用など支援しています。また、全国労山の根本的な理念や活動目標を掲げた新「趣意書」を制定、①権利としての登山、②登山の多様な発展、③海外登山の普及、④遭難事故の防止、⑤自然を守る活動の指針としてい

ます。労山独自の「労山自然保護憲章」も制定。英文に翻訳してアジア山岳連盟でも紹介、台湾の山岳会は労山の憲章を参考に自然保護憲章を制定しました。これらは、内外に誇れる活動です。

コロナ禍のなかで思うような登山活動ができない状態です。登山団体として、コロナ禍のなかの登山活動について研究し、登山文化を継承していくことが求められています。他の山岳団体とも協力して取り組んでい

く所存です。

世界的なコロナ禍のなかでも、一筋の光が差し込んできました。それは、核兵器禁止条約を批准する国が50カ国に達し、来年1月には発効します。「原水爆禁止国民平和大行進」に参加してきた労山は、核兵器禁止条約の発効を歓迎します。残念ながら唯一の被爆国である日本政府は後ろ向き姿勢ですが、批准を求めて働きかけていきます。

登山事故の病気やケガ 海外での遭難事故にも 格安で対応しているのは 「労山基金」だけです。



「山岳保険の現状と労山基金」

川嶋高志事務局長の記念講演（要旨）

日本勤労者山岳連盟が結

成された1960年代は、

山登りが国民のレジャー・

スポーツとして広まって

いった。登山ブームだった。

登山者が多くなるとともに

山岳遭難事故も急増し社会

問題にもなった時期だ。

当時は警察や消防などに

よる公的な山岳救助組織は

なく、民間のヘリコプター

や山岳関係者が遭難救助を

行っていた。民間の救助活

動は有料となり、ヘリコプ

ターによる救助や多人数の

捜索などは高額な費用が必

要で、遭難者は支払いがで

きなければ救助してもら

ことができなかった。

「お金が無くて助かる命が

失われる」。このような事態

を避けるために、労山会員

による労山会員のための遭

難対策基金を議論を重ねて

1974年に作った。

遭難対策の基金は、労山

会員数の増加とともに加入

者数も右肩上がりに増え、

救助捜索費も入院の費用

も大幅に改善することがで

きた。

さらに労山基金の規定第

1条の「目的」に掲げた『働

く者の立場に立脚した正し

い登山の発展に資する』こ

ともできるようになった。

35年間継続している「全国

雪崩事故を防ぐための講習

会」や「地方連盟登山学校・

講習会」への安全対策基金

からの支出は、その典型的

な例と言える。

労山は、趣意書で「海外

登山の普及」を掲げている。

通常は危険率の高いヒマラ

ヤ登山や海外の大岩壁での

登攀などは、民間の保険で

は高額な保険料が必要とな

る。だが、労山基金は国内
と同じ金額で対応している。

これは登山文化発展のた
めには難易度が高く危険率

が高いトップアスリートの

登山も支援しようという考

えからきている。国際的に

優れた登山活動を表彰する

「ピオレドール賞」を受賞し

ている日本人の多くは労山

基金に入っている。

発展を続けてきた労山基

金に存続の危機が迫った。

それは、2008年に施行

された「保険業法の改定」だ。

これは、詐欺行為から顧客

を保護するためのものだが、

営利企業が行う保険と仲間

の助け合いで運営する共済

が同じ法律で規制されるの

は不合理なことだった。

これを、労山基金は、申

し込んだ会員に対して遭難・

救助費用を補償する1年の

期間が終了した後に、寄付

金として納めてもらうとい

う後払い方式に変更するこ

とによって乗り切った。

現在は、公的な救助組織
も充実し、山岳遭難の救助

捜索に高額な費用が必要と

なる確率は低くなった。こ

のため救助捜索費用に特化

した格安の補償制度もでき

てきた。しかし病気やケガ

による日常生活の費用負担

の増加を補償し、海外での

山行にも格安で対応してい

るのは労山基金だけだ。

民間の保険会社では、登

山学校の賠償責任保険や海

外クライミング・高所登山

などは高額な保険料が必要

となる。

労山基金は遭難事故が少

なくなれば、今以上に安全

対策活動を充実させること

ができる。

労山基金の究極の目的は、

山岳遭難事故を無くすこと

だ。仲間を救うための制度

であることを自覚して安全

登山を励行することが大事

である。

広い会場を確保し、三密を避けて少人数で

山筋ゴーゴー体操講習会

岐阜県勤労者山岳連盟は、8月30日、山筋ゴーゴー体操講習会を石田良恵氏を講師に開催、22名が参加した。



岐阜県勤労者山岳連盟主催の山筋ゴーゴー体操講習会

コロナ禍と当初予定していた会場が利用できなくなった。県連盟の理事会では、開催について賛否があつたが、長沢理事長はなんとしても講習会を開催したいという強い意欲で、広い会場を県連役員と探し求

め、実施にこぎつけたもの。この講習会から、内容を分かり易く改良したテキストと楽曲入りDVDを使用して講習内容に組み入れた。コロナ禍の中で徐々に体を動かしたという人、脚を捻挫し治療中の人も参加していた。参加者は、長く山登りをしたいと思つて参加した。

筋トレの大切なことがよく分かつた、など講習会は大好評だった。また8人が山筋ゴーゴー体操のサポーターになりたいという希望があつた。

山筋ゴーゴー体操のTシャツ

好評 発売中です

全国連盟は、講習会等で要望があつた、山筋ゴーゴー体操のTシャツを作成して発売している。Tシャツは一般講習会用とサポーター用の2種類あります。とサポーター用の2種類。一枚1200円(送料100円)で、5枚以上まとめて注文すれば送料を無料で発送する。

Tシャツ 好評 発売中

●1枚 1200円+送料100円 ●5枚以上注文すれば送料は無料

※生地は、トライTシャツ(ポリエステル100%) 吸汗・速乾です

山筋ゴーゴー体操講習会などで、山筋ゴーゴー体操の「Tシャツほしいね〜」という声もよせられていました。全国連盟・山筋ゴーゴー体操推進委員会は、要望に応えるため検討してきました。デザインをどうするか議

論した結果、労山会員がボランティアでやっていたことになり、Tシャツを作成して販売することになりました。Tシャツは一般用とサポーター用の2種類あります。



右側のTシャツが一般用です。左側がサポーター用です。



- 別紙の申込用紙で申し込んでください
 - 申込用紙は、全国労山HPからダウンロードできます。
 - 問い合わせは、03-3260-6331 (am10:00 ~ pm6:00)
 - 申込先 mail=jwaf@jwaf.jp fax 03-3235-4324
- 日本勤労者山岳連盟・山筋ゴーゴー体操推進委員会

第20回全国登山者自然保護集会



大蔵喜福氏（登山家） 温暖化による山岳異変について講演

第20回全国登山者自然保護集会を静岡県連盟の主管で11月7～8日で静岡県浜松市三ヶ日町で開催した。コロナ禍のなか、17都府県から61名が参加した。

開催にあたって、主管の海野美春静岡県連盟理事長のあいさつ、全国連盟の浦添嘉徳理事長が主催者あいさつを行った

集会は「気候危機で壊される山岳自然！地球温暖化で環境を考える」をテーマに、大蔵喜福氏（登山家）が「消える氷河・山岳異変。温暖化を止めるのが人間の知恵」と題し講演を行った。大蔵氏は、世界中の山の氷河が融け出す山岳環境の異変について状況を報告。「登山者は自然の代弁者として自然の変化を知らせていっ

てほしい」と訴えた。

竹本自然保護委員長は、地球温暖化の問題点と気候危機に立ち向かう必要性を報告した。

2日目は、リニア新幹線問題（静岡県連）、足尾の植樹活動（栃木県連）、大規模風力発電計画その後

（徳島県連）、大阪府より自然保護憲章に照らしたライ

チヨウ保護活動、兵庫県連より六甲の自然保護活動、静岡県連から海岸清掃活動について報告した。

全国登山者自然保護集会は、『山岳自然環境を破壊し人類生存の危機をもたらしている「地球温暖化」抑制のための取り組みを推進する』というアピール宣言を採択した。

第34期全国女性担当者会議

「子づれ山さんぽと生活」

武井真理氏（スカモツカ店）が講演

全国連盟（女性委員会担当）主催の「第34期全国女性担当者会議」を9月5～6日で開催（全国連盟事務所）した。コロナ禍の中、10地方連盟から15名、全国役員等を含めて25名（Web参加14名）が参加した。会議では、①全国連盟の

報告、②武井真理氏の講演、③沼田久美子医師が「With Corona」登山と安全対策」の講義を行った。浦添理事長が①昨年の女性と登山の取り組み、②「女性と登山」の対策強化と課題、③全国女性委員会を再編成する3月理事会の決定

事項について報告した。

オンラインの参加者が多いため、二日目は自由討論を行った。コロナ禍のなか、①予定した女性集会や会議、県内山行を中止した、②女性のつどいでは、集会上に男性が参加しにくいという意見がある、③山筋ゴーゴー体操講習会・サポーター養成講座を男性も含め開きたい、④ジェンダー平等と女性委員会の名称—などについて発言があった。

講演した武井氏は、結婚・出産・子育てを通じ、女性がかかっている状況の中で、子どもを連れて、いろんな楽しみ方ができる—体験談を話された。

沼田医師は、コロナ禍時代の登山活動について、コロナウイルス感染症例や感染予防の三原則など「感染しない 感染させない」ための予防策を説明。「登山中の排泄問題で、携帯トイレの必要性を強調した。



マルチピットに
チャレンジ

若手のためのクライミング講習会

秋の小川山に総勢23名が参加

三瓶 健（全国理事・青年学生委員会）

今年で3回目となる「若手のためのクライミング講習会」を10月3〜4日に、長野県の小川山で開催した。コロナ禍の中、どの程度の参加があるのか不安だったが、予想に反した申込みで、早々に定員となり、総勢23名（講習生12名、講師・スタッフ11

名）で実施した。複数回の参加となる講習生もおり、講習会を続けることの大切さを実感した。初日は、検温をして体調を確認した。その後、ガマスラブ右壁にて全体講習を実施した。装備の着用、クライミングシステム、登り方などをひと通り説明し、トップロープでスラブを登る実技訓練を実施。普段は何気なく使っている装備や登攀技術も、「なぜそうする必要があるのでか」を理解することが大切であることを伝えた。

一日目終了後は、密を避けるため宿泊先の金峰山荘大広間を借りて、実技講習のおさらいと川嶋事務局長がアルパイン山行を報告し

た。夕食後は、皆さんお楽しみみの懇親会を密にならないようにして実施。今回は、山形や新潟からの参加者が

多く、山の話肴に、持参していただいた地酒を堪能した。

二日目は、レベルに応じマルチピットルートを登攀

2日目は、初日の登りや技術力・経験などを勘案して4班のチームに分かれ、レベルに応じたマルチピットルートを登攀。技術力・経験がある班は、屋根岩2峰の「セレクション」と、同3峰の「南稜神奈川ルート」に挑んだ。経験の浅い班は、八幡沢の「春の戻り雪」ルートに挑戦。

クライミングやプロテクションのセットに不慣れだったので、講師役のオーリリードでルートを登り、秋の小川山を満喫した。

講習会は、2日間とも天気に恵まれ、事故もなく終了することができた。一方で、コロナ禍でなかなか山に行けない期間が長かったため、登攀力や体力に不安があるという声も聞かれた。

「南稜神奈川ルート」班は、私が担当した。3名の講習生のうち2名が2回目の参加で、久しぶりにロープを組んで登った。取り付きで準備していると一瞬小雨がパラついたが、登れそうだったので予定通りスタート。講習生は、クラッ

これから冬を迎え、山はますますハードな環境になる。それぞれが置かれている環境で出来るトレーニングをした上で、山に入っ行ってほしい（感染防止対策は万全に！）。

会・クラブの活動コーナー

全会員が、どこかの部署に所属して活動できる会運営をめざして——

埼玉県連盟 大宮労山 新しい仲間が増えて

クライミング—新入会員の多くが関心

大宮勤労者山岳会副会長 岡野 和夫

大宮労山 知って、入会の問い合わせ には、新入 会員17人が 加入（19年 7月～20年 10月）した。 HPを閲覧、 また友人会 員を通じ、 会の旺盛な 山行活動を 山行活動を 会員は「入会して良かった

HPとクライミングが 入会のきっかけに

新入会者を迎えるきっかけがHPとクライミング。

年齢は30代から70代で、 男女比は2対1、クライミ ング志向の人も多いが、低 山ハイク志向の人も。新入 当、山行の計画・報告等、



10月10日 小樽・赤岩「テーブルリッジ」を登る 【撮影 塩田利之】

大宮労山に加入して、単 純に言って、良かったです！ 会のみなさんが会運営のこ と、メ ンバー (会員) のこと を考え て行動し、計画を立ててく 活発な会活動の様子を発信 している（「大宮労山」で検索）。

新入会員の多くがクライ ミングに関心があり、25名 ほどの面倒見が良い愛好者 がいて、屋内は定期的に、 屋外も毎週必ずクライミン グ山行がある。近隣の岩場 は勿論、過去にはフランス、 最近では小樽赤岩などへ出か け、合宿や会の中でクライ ミングコンペも始めてい る。会員外の愛好者との交 流も盛んで、その様子をHP にアップ、問い合わせも きている。

大宮勤労者山岳会（略称： 大宮労山）の創立は196

大宮 向上心 も高い です。 活動は、たいへん見習うべ き点が多く勉強になります。 5年（創立55年）。会員は 74人で構成。常に全体に気 を配る会長と補佐する副会 長、膨大な事務を処理する 事務局、数多の山行をマ ネージメントする山行部、 毎月の学習会を企画運営す る教育部、毎月発行の会報 を作成する会報部、山行や 基金の管理を担当する遭難 対策部、労山ならではの自 然保護部、充実した装備を 管理する装備部、それに会 計、登山時報、HP担当者 を置いて活動している。

今後は、全会員がどこか の部に所属して活動しても らうことが今年度の方針。



リニア建設の反対署名(4039人分)を国会に に手渡す

本村伸子・畑野君枝衆院議員
武田良助参院議員

日本勤労者山岳連盟は11月26日、全国の仲間が集め

右から、畑野君枝、武田良助、本村伸子議員、浦添、竹本、山本、久保の各氏

た「リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さないでください」ーリニア新幹線計画の凍結・見直しを求める署名4039人分を日本共産党議員に手渡した。同署名の提出、国会要請は、2018年7月に続き2回目合わせて1万5千人になった。要請行動には、浦添嘉徳理事長、久保典子副理事長、竹本幸三理事、自然保護委員長、山本尚徳理事が参加した。署名を提出した

後に国会議員と懇談。

浦添理事長は、南アルプスは山岳自然環境を多く残されている地域で、生物多様性の屋台骨といわれている

リニア中央新幹線工事は、南アルプスの大井川流域の自然を破壊するものであるため、大井川流域の住民・お茶の生産者などから大きな関心

がもたれている。そして、静岡県岡山の川勝平太知事も水問題で工事の許可を出していない。

このようななかで、大井川流域の住民(107人)らは10月30日、JR東海を相手に静岡県内の区間の工事差し止めを求める訴えを静岡地裁に行った。リニア工事の中止を求める住民訴訟は3番目。工事の差し止めを要求する

る。この貴重な大自然をリニア工事で破壊させてはいけない。後世に豊かな自然を残していくのが私たち日本人の仕事と強調した。

竹本自然保護委員長は、東京の外環道の工事は「深度だから大丈夫」と言いながら実際は陥没した。リニアでも「掘ってみたら影

理由として、第一に、近年大井川の水量減少は大きな社会問題になっており、リニア工事ではこれ以上の水量減少が生じることは大井川の水を利用してしている8市2町の住民(約

63万人)の生活を根底から脅かす。第二に、かけがえのない価値を有する南アルプスの大自然に、工事で「穴」を空けられてしまうと、水環境の破壊による生態系の崩壊が生じることは必至で、壊された自然環境は二度と取り戻すこ

り「リニア新幹線凍結・見直しの運動はこれからが正念場。南アルプスの自然を守る署名活動の推進が必要。署名用紙は、全国労山HPからダウンロードを。」

署名集めに協力を

リニア新幹線凍結・見直

とはできず、人類にとつて極めて大きな損失となるーことなどをあげている。

南アルプスは、山地の隆起と崩壊が繰り返している。最近70年間の測量データによる

と赤石山脈は年間約4mm隆起し、世界的にまれにみる現象である。

また、キタダケソウをはじめ180種類もの南限種の植物が生育している。天然記念物のライチョウも約700羽が確認され、貴重な動物も生育している。リニア工事は、これらの生態系をも破壊するこ

る。この貴重な大自然をリニア工事で破壊させてはいけない。後世に豊かな自然を残していくのが私たち日本人の仕事と強調した。

リニア建設の工事差し止め

大井川流域住民らがJR東海を提訴

このように、大井川流域の住民(107人)らは10月30日、JR東海を相手に静岡県内の区間の工事差し止めを求める訴えを静岡地裁に行った。リニア工事の中止を求める住民訴訟は3番目。工事の差し止めを要求する

理由として、第一に、近年大井川の水量減少は大きな社会問題になっており、リニア工事ではこれ以上の水量減少が生じることは大井川の水を利用してしている8市2町の住民(約

63万人)の生活を根底から脅かす。第二に、かけがえのない価値を有する南アルプスの大自然に、工事で「穴」を空けられてしまうと、水環境の破壊による生態系の崩壊が生じることは必至で、壊された自然環境は二度と取り戻すこ